

令和3年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	277

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光振興事務
事業目的	観光に関する各種情報をわかりやすく整備し、犬山への誘客増を図るとともに来訪後の利便性と満足度を高める。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・犬山市の観光情報ホームページにおいては、旬な情報提供を心がけ、見やすさ、わかりやすさに配慮しながら適切に管理する。 ・公共駐車場の空き状況や犬山城の待ち時間表示等、観光客に必要な情報をリアルタイムで正確に提供する。 ・各種イベントなどにポスター等の広告物を提供し、観光振興を図る。 ・観光施策事業推進に資するデータや情報等収集のため、情報誌（観光新聞等）を購入する。 ●主な事業費 <ul style="list-style-type: none"> ・犬山市観光情報ホームページ管理業務委託料 660,000円
事業の成果・効果	観光振興・観光宣伝において、犬山観光情報ホームページは観光客に対し犬山の魅力を伝え、来訪意欲を喚起する点において極めて重要であり「犬山観光の玄関口」という位置づけである。ホームページ内ではイベント告知をはじめ、様々な観光に関する情報を積極的に発信しており、旬な情報提供を心がけ、見やすさ、わかりやすさに配慮しながら実施するなど、観光振興における重要な役割を十分に全うしている。

II : 個別事業内訳

(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

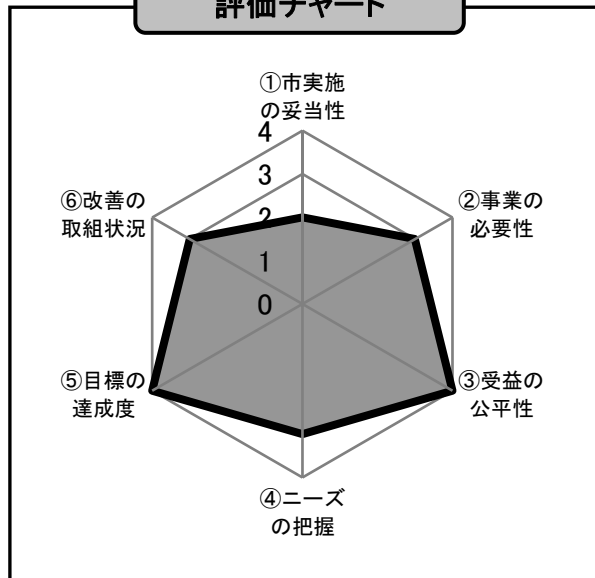
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		適時性確保 適応性向上	情報発信 ・共有化	業務の 効率化
観光振興事務	796	0	796	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	796	0	796	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R2決算	R3決算	R4予算
		881	796	849
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	881	796	849
一般財源の割合		100%	100%	100%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	2	市、観光協会、民間事業者で連携して実施しており、民間だけでは多様で充実したサービスの提供は困難である。
②事業の必要性	3	犬山の観光振興を推進することで、市の認知度向上、域内消費額の増加による地域経済活性化、及び郷土愛醸成に繋がる重要な事業である。
③受益の公平性	4	事業の主たる対象は不特定多数の観光客であり、特定の個人・集団に偏ることなく、公平性は保たれている。また、ホームページ等で発信される内容は観光客だけでなく、すべての市民に対しても楽しく有益な情報提供になるよう努めている。
④ニーズの把握	3	城下町を中心に、随時、住民、事業者へ声掛けを行うなど、意見集約に努めている。
⑤目標の達成度	4	犬山観光の情報をホームページによりわかりやすく、随時発信することができ、当初の目的は達成した。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和3年度に見直しを実施した事項	常に鮮度と質の高い情報発信を心がけ継続することを第一義に考え、事業実施していく。その上で、体験型観光メニューの情報など、より分かりやすく関心を促すような内容を提供できるようこころがけた。
令和4年度に見直しを実施している事項	ホームページに関し、内容の精査を随時行う。情報の鮮度や内容の深まり、充実を心がけることで観光客にとっても、市民にとっても理解と関心、及び親和性を高める犬山の観光情報の玄関口となるよう、精度を高める。
今後見直しを検討する事項	細かな催事情報を出来る限り集約して発信できるスキームの構築を検討する。城下町だけでなく、市域全体の観光に関する情報を随時適切に提供できるよう体制についても検討を進める。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和3年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
犬山観光情報の内容の更なる充実と鮮度の維持向上。	ホームページの内容の精査を適宜進めることに注力していく。情報の鮮度や内容の深まり、充実を心がけることで、観光客にとっても、市民にとっても理解と関心、親和性を高める犬山の観光情報の玄関口となるよう、精度を高めていく。市や観光協会主催事業以外の情報集約と発信について検討を行う。

令和3年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	279

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光協会運営補助
事業目的	観光振興に必要な知見とノウハウを有する(一社)犬山市観光協会に対して運営費補助を実施することで、近傍地から広域にかけての観光振興や国海外を含むメディアセールスを実施。WITH及びポストコロナ時代におけるインバウンド需要への対応や国内誘客を推進する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○犬山の観光推進に関する体制の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・観光振興のため、観光協会の人件費の一部を補助することで事務局体制を維持・強化し、新たな観光施策事業への挑戦、近傍～広域圏の観光誘客・招聘、観光を通じたまちづくり等、法人ならではのスピード感と機動力を活かした観光推進を実現する。 ●主な事業費 <ul style="list-style-type: none"> ・犬山市観光協会運営補助金 26,412,665円
事業の成果・効果	(一社)犬山市観光協会は、信頼性、柔軟性、旅行会社経験者の専門的知識等、組織力を活かして観光振興を進めている。市だけでは成し得ない宣伝・営業など幅広い事業展開を可能にしており、観光施策推進において十分な成果を発揮し、多くの観光誘客を実現している。犬山観光の核としての役割を担っている。

II : 個別事業内訳

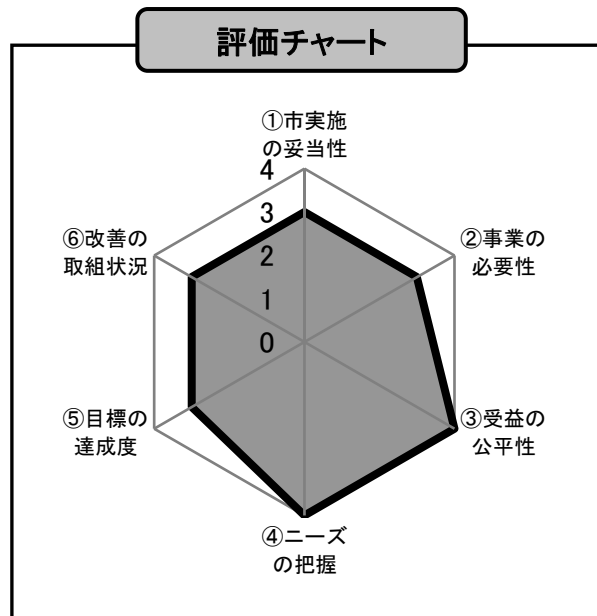
(単位:千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		適時性確保 適応性向上	情報発信 ・共有化	業務の 効率化
観光協会運営補助	26,413	0	26,413	100%	4	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	26,413	0	26,413	100%	4	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R2決算	R3決算	R4予算
		25,060	26,413	26,454
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	25,060	26,413	26,454
一般財源の割合		100%	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	観光協会は、市単独では実施不可能な観光宣伝・誘客を実現しているとともに、公益的な役割も果たしている。組織として持続発展するためには、市が運営を支援する必要がある。
②事業の必要性	3	犬山の観光振興を推進することで、市の認知度向上、域内消費額の増加による地域経済活性化、及び郷土愛醸成に繋がる重要な事業であり、中心的役割を担う協会の存続は必要性がある。
③受益の公平性	4	協会への補助を通じて不特定多数の観光客への利便性向上に資するものであり、事業効果としての公平性は保たれている。また、観光振興、観光まちづくりにより、すべての市民に対しても有益な取組みとなるよう努めている。
④ニーズの把握	4	城下町を中心とした地区住民との意見交換や、事業者への宣伝事業説明会などを通じて、課題の把握と共有、改善のための提案・実践に努めている。
⑤目標の達成度	3	一般社団法人としての責任感、使命感を持って観光宣伝事業や自主事業等を行い犬山観光を前進させている。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和3年度に見直しを実施した事項	実施体制や事業内容等について適正な精査を行い、適宜報告を受けることでより効果の高い補助事業となるよう努めた。コロナウイルスの影響を受ける中、持続可能な観光地として維持発展できるよう出来る限りの取組みを進めた。
令和4年度に見直しを実施している事項	現時点においても地域の観光振興の核としての責任を果たしているが、令和3年度に策定した犬山市観光戦略にもとづき、今後「観光まちづくり」を推進していく役割を担うよう求めていくことで、地域での存在感を増していくことを期待する。
今後見直しを検討する事項	観光宣伝・誘客活動においては十分な実績がある。今後は令和3年度に策定した観光戦略にもとづき、「観光を切り口とした課題の解決」に取り組んでいくことを求めるとともに、地域における観光マネジメントの役割も期待したい。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和3年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
観光を切り口とした「地域づくり」が進むよう、取組み内容を精査・充実させていくこと、及び観光が産業として成長すること。	現時点においても地域の観光振興の核としての重責を果たしているところであるが、令和3年度に策定した観光戦略にもとづき、今後「観光まちづくり」を加速的に推進していく役割を担うよう求めていくことで、地域での存在感を増していくよう期待する。

令和3年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	277

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光客誘致
事業目的	(一社) 犬山市観光協会と連携したキャンペーン等の宣伝活動の実施、各種協議会との協働による広域での観光PR活動等を通じて犬山観光の価値と魅力を高めるとともに、ブランドイメージを向上させ、全国から犬山への観光誘客を図る。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <p>○犬山観光キャンペーンの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋鉄道、(一社) 犬山市観光協会と連携し、春夏秋冬の観光宣伝キャンペーンを実施。 <p>○まつり・催事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの影響を受け犬山祭の車山運行は中止となった。 ・日本ライン夏まつりロングラン花火も中止となった。 <p>○キャラバン等による観光宣伝の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地でのキャラバン等の観光宣伝活動は縮小や内容を変更して実施することとなった。一方で時期や情勢を見て、関西圏での誘客活動など、コロナ禍での取組み方法も工夫して実施した。 <p>○観光客の受入に関する体制の構築とおもてなし事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・城下町を中心に交通誘導體制を整え(警備員の配置)、渋滞・混雑緩和と円滑な観光客の誘導を図った。 <p>○シェアリングエコノミーの活用推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(一社) 犬山市観光協会と連携しシェアエコの仕組みを活かした体験型観光メニュー造成と普及啓発を進めた。 <p>●主な予算の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬山城下町交通誘導警備委託料 18,080,480円 ・各協議会等負担金 22,687,571円 (飛騨木曾川、国宝城郭都市、犬山集中大規模等) ・各団体補助金 350,000円 (桃太郎あゆまつり催事)
事業の成果・効果	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、令和3年度の観光誘客は依然厳しい状況が続いた。しかしながら、経済活動は徐々に再開され、観光動向の指標とされている令和3年の犬山城登閣者数は約28万人となり対前年比109%と増加に転じた。新型コロナの影響を受けながらも、城下町を中心に観光客は徐々に増え始めた。ただし、犬山祭や日本ライン夏まつりロングラン花火などの大型催事は中止となり、また協議会等での誘客宣伝活動も取りやめとなることも多くあり、本格的な観光振興の取組みには至っていない。

II : 個別事業内訳

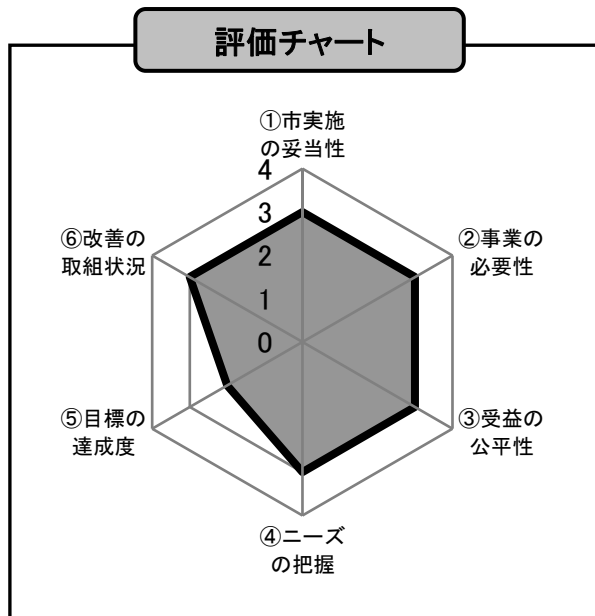
(単位: 千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		適時性確保 適応性向上	情報発信 ・共有化	業務の 効率化
観光客誘致	43,984	10,965	33,019	75%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	43,984	10,965	33,019	75%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R2決算	R3決算	R4予算
		35,984	43,984	80,247
財源内訳	国県支出金	661	681	0
	地方債	0	0	0
	その他	26	10,284	32,930
	一般財源	35,297	33,019	47,317
一般財源の割合		98%	75%	59%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市、(一社)犬山市観光協会、民間事業者等で連携し実施している。。市が主体的に実施することで内容や連携を充実させ効果的に進めることができる。
②事業の必要性	3	名古屋鉄道をはじめとする民間事業者との連携、キャラバン等の誘客宣伝活動の実施は、域内消費額や雇用の増加を目指し郷土愛を高めることに資する観光施策として必要性がある。
③受益の公平性	3	令和3年度はコロナ禍で開催を断念したが、犬山祭や日本ライン夏まつりは市民に愛される催事であり誰もが楽しみ恩恵を受けるものである。
④ニーズの把握	3	登閣者数、スタンプラリー参加者数などを通じてニーズ把握に努めている。また、キャンペーン開催時の事業者説明会などでも意見交換をするなど、課題の把握を図っている。
⑤目標の達成度	2	令和3年度も以前として新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、従来予定していた誘客宣伝活動は中止など制限され、一部は手法を見直し工夫して実施することとなった。
⑥改善の取組状況	3	コロナ禍において、事業の妥当性、経済性、安全性、持続可能性等を考慮している。今後もコロナを念頭に効果的で持続可能な観光振興を展開していく。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和3年度に見直しを実施した事項	コロナの影響は大きく、各協議会事業は、内容の変更・中止など実状に合わせた取組みとなった。シェアリングエコノミー推進事業は、体験メニューを拡充する中で、オンライン開催の推進、担い手発掘のためのオンライン説明会など取組みを工夫した。
令和4年度に見直しを実施している事項	令和4年度は引き続き新型コロナウイルスの影響を考慮しつつも、withコロナ時代における効果的な観光振興の方策を模索していく。コロナ禍でも実施可能な催事の開催方法、誘客宣伝活動など、工夫を重ね取組を強化したい。
今後見直しを検討する事項	新型コロナウイルスの影響を考慮しつつ、コロナ禍でも実施可能な事業展開を模索・検討する。各協議会の事業内容、効果、成果については、各協議会の状況も踏まえながら確認及び検証が可能となるよう検討を進める。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和3年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
各事業の内容精査。各協議会の取組み充実検討。これまで以上に観光振興に資する取組みの検討と充実。	新型コロナウイルスの影響拡大を契機に、観光振興の在り方や施策の方向性、考え方を再検討・再構築すべき状況にある。「シビックプライド」としての機能・効能や「まちづくり」ツールとしての「観光」の在り方を、事業者、住民、各団体と協働により研究・検討していく必要がある。

令和3年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	277

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光案内所運営
事業目的	観光案内所の適正な管理運営と案内機能を充実させることにより、観光客へのおもてなしと満足度を高める。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬山駅及び犬山城前の2カ所の観光案内所を通年で開設。来訪者に対して正確で丁寧な観光案内の実現を図った。 ・運営は観光振興に関する知見とノウハウを豊富に有する（一社）犬山市観光協会に対し委託業務として発注。来訪者に対し適切に対応。安定的な管理体制を実現。 <p>●主な事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬山観光案内所運営委託料 19,709,499円（犬山駅、城前）
事業の成果・効果	観光客を迎える玄関口として犬山駅、及び城前の2カ所で観光案内所を設置し運営している。新型コロナウイルス感染症拡大の対策は、飛沫拡散防止パネルやソーシャルディスタンスを促すマーク、消毒液の設置など、コロナ禍での安心安全を確保するための措置を講じ、withコロナ時代の管理運営のノウハウを蓄積できている。こうした中、来訪者に対しては、観光案内や情報の提供を適宜、丁寧に実施することができた。運営は犬山市観光協会に委託し適切な運営を行うことができた。

II : 個別事業内訳

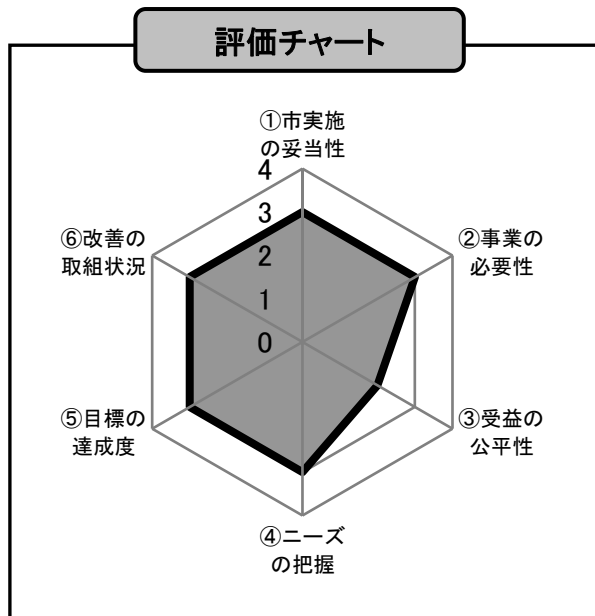
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		適時性確保 適応性向上	情報発信 ・共有化	業務の 効率化
観光案内所運営	19,903	19,903	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	19,903	19,903	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R2決算	R3決算	R4予算
		18,386	19,903	20,879
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	17,581	19,903	20,879
	一般財源	805	0	0
一般財源の割合		4%	0%	0%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	観光客の旅の利便性確保のため主体的に設置・運営する必要がある。
②事業の必要性	3	観光都市犬山として、観光振興は必要な事業である。その中で観光の玄関口となる案内所の運営は、ストレスなく快適な観光を実現するため、必須である。
③受益の公平性	2	観光案内所で必要かつ的確な情報提供を行うことで、来訪者が円滑に移動し渋滞や混雑の緩和に資することになり、地域住民に対する生活への影響を小さくする。
④ニーズの把握	3	案内所窓口で直接意見や提案をお聞きしたり、観光関係者等から意見を求める等、ニーズを常に把握し進めている。
⑤目標の達成度	3	新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと講じながら、丁寧な接客、わかりやすい観光案内を高水準で実施できている。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を常に考慮しながら、観光施設の管理・運営を実現できている。コロナ禍でも安心安全の確保、持続可能な観光地を構築できるよう取組みを強化する。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和3年度に見直しを実施した事項	依然として新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、年間を通じて安心安全な観光地として維持継続できるよう、コロナ対策を標準装備として適宜適切に実施した。
令和4年度に見直しを実施している事項	城前観光案内所の多目的スペースは令和3年度に写真展開催での利用があったが、更に活用が進よう、検討する。また案内所北側においては空きスペースの活用が課題である。今後土地の貸付など新たな利活用スキーム構築を検討し令和4年度中に実施する。
今後見直しを検討する事項	城前観光案内所では、情報発信・提供、休憩機能など、多様な機能を有した観光交流拠点として更に充実させていきたい。特に城下町から河畔、市域に点在するテーマパーク、その他自然資源へのアクセスが円滑にできるよう、自転車、タクシー等も含めた移動拠点としての機能を充実させていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和3年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
案内機能の充実。市民が活躍できる仕組みの構築。更なるコロナ対策の徹底。	空地の活用を目的に物販等更に稼ぐ手法の検討を行うとともに、観光が面的に広がり分散化が図れるよう、市内各地を結ぶハブ機能としての充実を研究・検討する。多目的スペースの利活用を促し、市民が活躍できる仕組み構築を検討する。

令和3年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	277

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光施設管理
事業目的	観光トイレ、園地等広場、及び観光案内看板等の維持管理を適正に行うことで、観光地としてのイメージを高めるとともに、来訪者の満足度を向上させる。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各案内看板の適正な維持補修及び管理 <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した看板等を修繕し来訪者の安全と利便性を向上。 ○各観光トイレの定期的な清掃及び維持補修管理 <ul style="list-style-type: none"> ・観光トイレ等を通年で清掃等の維持管理を行うことで清潔さを保ち、観光客の利便性を向上。 ・破損等が生じたトイレの維持補修を実施。 ○観光施設の除草剪定等の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・観光施設の除草剪定作業を定期的に行い、施設の適切な維持管理を実現。 <p>●主な予算の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公衆便所、観光施設等修繕料 2,539,735円 ・観光施設除草剪定業務委託料 1,881,000円 ・観光施設の巡回清掃及び公衆便所の清掃管理業務委託料 8,230,750円 ・丸の内緑地公衆トイレ洋式化改修工事請負費 271,700円
事業の成果・効果	観光客へのおもてなしとして、観光施設の適切な維持管理は必須である。清掃や除草剪定等の日常の維持管理はもちろんのこと、トイレの不具合等への迅速適格な対応のほか、劣化が進んだ案内看板は順次修繕を実施するなど、適正に管理を行うことができた。

II : 個別事業内訳

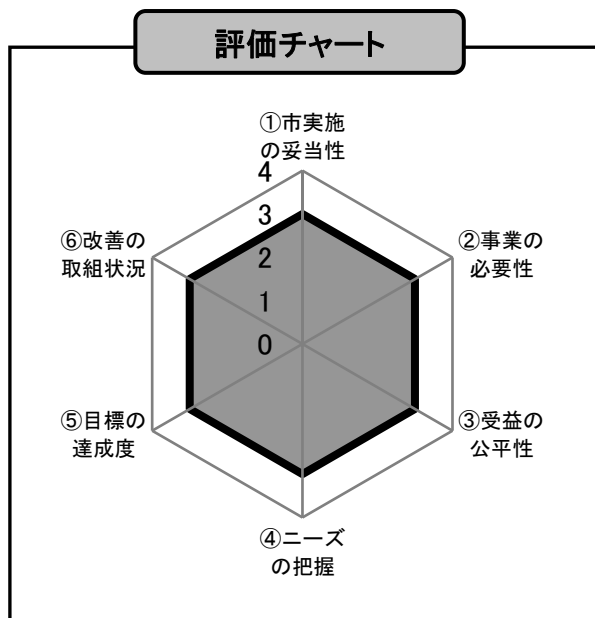
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		適時性確保 適応性向上	情報発信 ・共有化	業務の 効率化
観光施設管理	16,222	16,222	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	16,222	16,222	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R2決算	R3決算	R4予算
		17,953	16,222	19,716
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	17,953	16,222	19,716
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	公共施設として観光客の旅の利便性確保のため主体的に実施する必要がある。
②事業の必要性	3	観光都市犬山として、観光振興は必要な事業であり、施設の適正な維持管理など受け入れ環境の充実が必要である。
③受益の公平性	3	トイレをはじめとした公共施設は、観光客だけでなく、市民の利用も多く、誰もが利活用可能である。観光駐車場利用者には料金を徴収しており、受益者負担を適切に実現している。
④ニーズの把握	3	施設利用者や観光関係者等から意見を求めるなど、ニーズを常に把握し進めている。
⑤目標の達成度	3	公衆便所等の観光施設は維持管理が支障なく出来ている。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を常に考慮しながら、観光施設の管理・運営を実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和3年度に見直しを実施した事項	老朽化した看板は順次修繕・更新した。犬山遊園駅及び犬山駅西口に設置していた木質系看板は、新たなホテル建設も踏まえWELCOME看板に更新し、犬山観光の魅力増進に寄与した。国道41号線沿いの犬山城誘導看板については国道6車線化工事に伴い撤去しているが、国道管理事務所と再設置に向け適切に協議を行った。
令和4年度に見直しを実施している事項	ホテルインディゴ犬山有楽苑に隣接する彩雲橋公衆トイレの改築工事を実施する。木曾川河畔沿いの魅力とおもてなしの向上を図る。案内看板についても景観に配慮した形で修繕を行い、誘客を促進する。
今後見直しを検討する事項	看板や公衆トイレ等、老朽化が進む施設も多く、快適なおもてなし環境を構築するために、効率的効果的な更新・修繕を実施していく。そのために、優先順位と必要性を十分吟味し計画・実践を進めていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和3年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
施設の計画的かつ効率的な更新。財源の安定的な確保、効果的な受け入れ環境整備の検討と設定。	適切な施設の維持管理を実現するためには、日常的な維持管理や点検等、効率的な運営を進める必要がある。老朽化に対する対応など、計画的に実施していく。また、管理者である職員の経験値を全体的に高めるとともに、ノウハウが共有できるような仕組みを構築していく。

令和3年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	279

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光事業振興基金積立金
事業目的	将来の観光振興に係る経費の一部を積立し、一時的に多額の費用が必要となる事業が発生した場合に活用する。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観光事業振興基金への積立 <ul style="list-style-type: none"> ・犬山温泉に係る入湯税の一部を基金の財源として積み立てる。 ○観光事業振興基金の取り崩し <ul style="list-style-type: none"> ・観光振興に一時的に大きな費用が生じる場合において、基金の一部を取り崩して活用する。 <p>※令和3年度実施なし。</p>
事業の成果・効果	観光事業振興基金は、入湯税の一部を基金として積み立て観光施設の建設費用や観光施策に関する事業費に役立てている。令和3年度は、依然として新型コロナの影響を受けたこと等から入湯税は大幅に減少し厳しい状況となった。なお、令和3年度における基金の活用は該当する事業の実施がなかったため、行うことはなかった。

II : 個別事業内訳

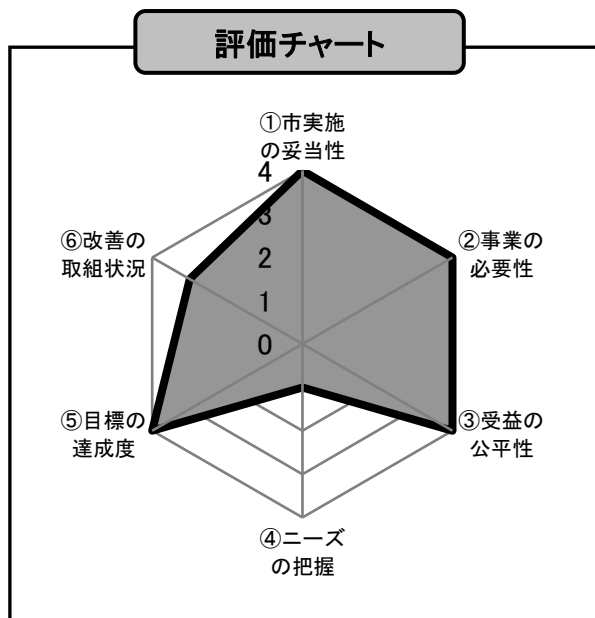
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		適時性確保 適応性向上	情報発信 ・共有化	業務の 効率化
観光事業振興基金積立金	585	585	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	585	585	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R2決算	R3決算	R4予算
		3,911	585	1
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	3,911	585	1
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	条例で規定しており、市が将来において必要な観光事業に活用可能な財源確保の手法として必要な事業である。
②事業の必要性	4	計画的に基金として積み立てておくことで、経済危機等の状況であっても、必要な設備等への投資が可能となり、継続的な観光振興のため、実施の必要がある。
③受益の公平性	4	基金の使途として、近年の事業として観光案内所やトイレ整備等に用いており、観光客だけでなく、広く市民に恩恵のある事業である。
④ニーズの把握	1	基金の使い道は市民及び観光客のニーズの高い事業に投じるものであるが、基金の積み立てそのものはニーズ把握をする性質のものではない。
⑤目標の達成度	4	基金運用、活用を効率的、効果的に行い、成果を得ている。
⑥改善の取組状況	3	特になし

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和3年度に見直しを実施した事項	名鉄犬山ホテルの閉鎖・建替え期間中であること、及び新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことから、宿泊者数は大きく減少し入湯税も減額という状況となった。令和3年度は該当する事業が無かったため、基金の活用は行わなかった。
令和4年度に見直しを実施している事項	新型コロナウイルス感染症拡大の影響は未だ看過できない状況ではあるが、ホテルインディゴ犬山有楽苑が令和4年3月に開業したことで、入湯税は徐々に増加していくと期待している。その上で基金の運用は適切な事業に対し適切な時期に実施するよう計画的に進める必要がある。
今後見直しを検討する事項	基金に計上する財源として、入湯税だけでなく、観光駐車場使用料など他の収入を含めることも検討する必要がある。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和3年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
継続的な積立と安全で効率的な運用を図る必要がある。	令和4年3月にホテルインディゴ犬山有楽苑が開業。入湯税の増加も期待するとともに、利用者増のため犬山温泉における効果的なブランディングも検討が必要である。

令和3年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	279

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	木曽川うかい事業費特別会計繰出金
事業目的	「木曽川うかい」を犬山の伝統文化として、保存伝承すると共に、犬山の観光資源として活用する。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○木曽川うかいに係る観光宣伝 <ul style="list-style-type: none"> ・各務原市との協力体制を強化するとともに、木曽川観光(株)とも連携し、各地での宣伝活動を実施。 ○鵜の飼育管理 <ul style="list-style-type: none"> ・鳥インフルエンザ対策など鵜の健全な管理を強化。 ○鵜匠の育成(男性3名の正規職員、女性1名の観光協会職員) <ul style="list-style-type: none"> ・犬山の伝統漁法、木曽川の観光資源として保存継承していくため、将来における安定的な実施体制について継続して検討。 ○船頭の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・伝統漁法の保存継承に欠かせない船頭に関し、次代を担う人材を継続して育成。 <p>●主な事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木曽川うかい事業費特別会計繰出金 52,919,000円
事業の成果・効果	「木曽川うかい」は犬山が誇るべき貴重な文化財であるが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けるとともに、大雨などによる河川の増水も多く、コロナ前に比べると依然厳しい状況であったが、鵜飼観覧者数は令和2年度からは微増した(対前年比約18%)。船頭育成事業は、的確に訓練を実施することができ、内容も充実した結果2名がとものりを合格し取組みを前進させることができた。

II : 個別事業内訳

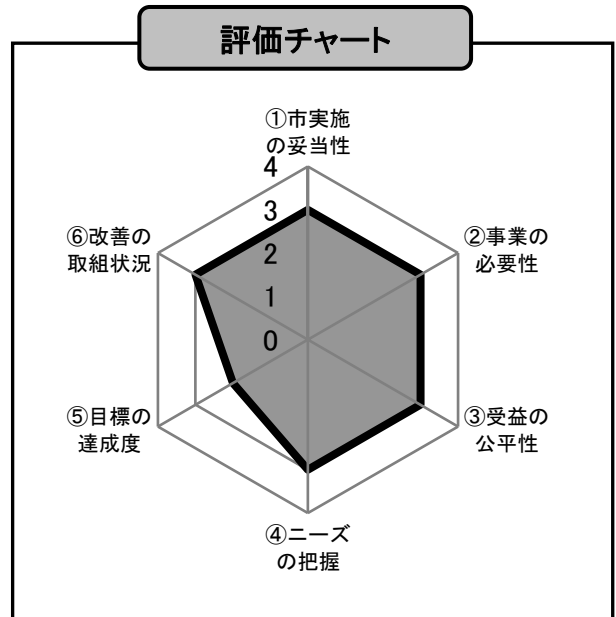
(単位:千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		適時性確保 適応性向上	情報発信 ・共有化	業務の 効率化
木曽川うかい事業費特別会計繰出金	52,919	52,919	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	52,919	52,919	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R2決算	R3決算	R4予算
		30,209	52,919	62,300
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	30,209	52,919	62,300
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市指定文化財である貴重な犬山の伝統文化を保存継承していくためには、市営鶺鴒の継続は必須である。
②事業の必要性	3	市指定文化財の貴重な犬山の伝統文化であり、保存継承していくべき事業である。
③受益の公平性	3	市民のまちへの誇りを高めるとともに、郷土への愛着醸成に寄与する事業であり、市民全体に関わりのある取組みである。
④ニーズの把握	3	夏休みうかい体験など多くの申し込みをいただいたことから、鶺鴒事業のニーズはあると認識している。
⑤目標の達成度	2	鶺鴒観覧者数は新型コロナウイルスの影響が大きく、加えて大雨による川止めも多くなり2年連続で低い数値となった。船頭育成事業は、計画どおり進捗した。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和3年度に見直しを実施した事項	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、昨年に続き厳しい状況となった。観覧にあたり船会社(木曾川観光(株))と連携し、乗船者数を減らすなど、感染症対策を講じながら実施。コロナ禍における運用の知見や経験を蓄積できた。市民うかいの一環として夏休みうかいを計画し、小中学生に鶺鴒見学の機会を提供できた。
令和4年度に見直しを実施している事項	引き続きコロナの影響は大きく予断を許さない状況であるが、感染症予防対策をしっかり講じ、安心して楽しんでいただけるよう、関係者と連携して伝統漁法を継承していきたい。また、市所有の「若あゆ丸」の改築を予定しており、高付加価値商品造成を図り、鶺鴒の魅力向上を図る。
今後見直しを検討する事項	コロナ禍であっても事業継続が可能となるよう、鶺鴒事業など川文化保存発展のための創意工夫が必要である。また以前船頭の高齢化問題もあり、船頭育成は喫緊の課題であり、「なかのり」「とものり」育成事業を今後も実施する必要がある。また、おもてなしの向上として遊覧+αの企画船を検討し実施していく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和3年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
鶺鴒の船頭(なか乗り、とものり)の育成が必須。取り分け専門性の高い「とものり」を育てることが重要である。 鶺鴒の人気と愛着を高める工夫が必要。	船頭育成事業は引き続き継続して実施し、伝統漁法の保存継承に努める。川文化を維持発展させるための多様な主体による多様な取組みが必要であり、遊覧船事業も含め、河川空間活性化の為の官民が連携していくことが肝要である。

令和3年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	277

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光駐車場管理
事業目的	キャッスルパーキングと内田観光駐車場を一体的に管理運営することで、城下町エリアに訪れる観光車両を効率的に受け入れるとともに、利用料による自主財源の確保を図る。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <p>○キャッスルパーキングと内田観光駐車場の一体的な管理運営。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャッスルパーキング及び内田観光駐車場を効率的に運用。 ・キャッスルパーキング満車時には内田観光駐車場へ誘導し混雑緩和を図るなど適切に管理。 ・混雑時には多目的広場を活用し利用料を得て自主財源確保に努めた。 <p>●主な事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・印刷製本費（駐車券） 646,800円 ・観光駐車場管理業務委託料 25,788,621円
事業の成果・効果	城下町地区に整備した2か所の公共駐車場（キャッスルパーキング、内田観光駐車場）は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたものの、令和2年度に比べると回復傾向にあり、利用台数としては対前年比20%増となった。また、維持管理及び運営自体は受託事業者と連携し適切に実施することができた。

II : 個別事業内訳

(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

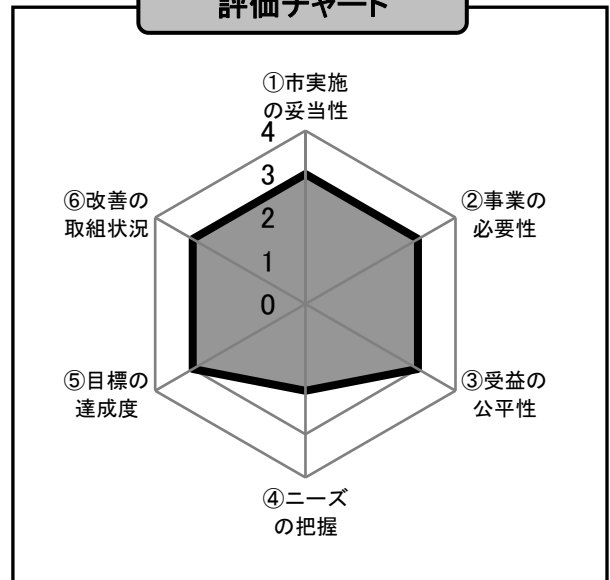
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		適時性確保 適応性向上	情報発信 ・共有化	業務の 効率化
観光駐車場管理	27,371	27,371	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	27,371	27,371	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R2決算	R3決算	R4予算
		25,295	27,371	28,582
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	25,295	27,371	28,582
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	受け入れ環境を整備し、観光客の旅の利便性確保のため、主体的に実施する必要がある。
②事業の必要性	3	観光都市犬山として、受け入れ環境の整備は必要な事業である。また、渋滞緩和や混雑改善のため、地域住民への生活支障を少しでも軽減させるため、施設の整備は必須である。
③受益の公平性	3	渋滞緩和等の交通状況の改善を図り、周辺住民への影響を軽減させることになり、必要な事業である。また駐車場利用者には料金徴収し、受益者負担を適切に実現している。
④ニーズの把握	2	観光客(利用者)や観光関係者等から意見を求めるなど、ニーズを常に把握し進めている。
⑤目標の達成度	3	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたものの、利用者数は対前年比で20%増となるなど、観光客数はコロナ以前に戻つつある。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を常に考慮しながら、観光施設の管理・運営を実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和3年度に見直しを実施した事項	依然としてコロナの影響は予断を許さず、今後の予測は困難であるが、コロナ禍であっても観光客に対して丁寧な対応を行い、満足度を高める工夫に努めた。また、円滑な誘導などにより、周辺の混雑緩和に努め、地域住民の生活への影響が少しでも軽減できるよう尽力した。
令和4年度に見直しを実施している事項	新型コロナの影響を受けながらも、11月の行楽シーズンには公共駐車場が満車となり車列が長く発生する状況があった。令和4年度は案内を更に効果的に行うなど、ピーク時においても的確に誘導ができるよう、警備員の配置や役割など手法を検討していきたい。
今後見直しを検討する事項	キャッスルパーキング及び内田観光駐車場、市役所駐車場が連携し円滑な誘導體制を構築する必要がある。また、シェア駐車場など他の手法も研究検討し、利用者の利便性を高めるとともに観光客・住民の双方が共存できる観光地を目指す。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和3年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
駐車場管理の更なる効率的な運用方法。余剰スペースの利活用。内田駐車場多目的広場利用時の効率的な誘導。2施設間の効果的な誘導方法確立	駐車場管理は安定的な収益と適切な運営がある程度実現できている。しかしながら、ピーク時の適切な対応方法など、改善すべき点も多いため、受託者等と十分な協議を行い、更なる改善を図る。

令和3年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	277

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光戦略
事業目的	新たな2つのホテル開業、リニア中央新幹線の開通など、今後予想される市の観光を取り巻く環境の変化に対応するとともに、新型コロナウイルスの影響を鑑み「新しい観光」という視点も踏まえ、持続発展する観光地となるため、詳細な調査・分析を基に観光戦略を策定し、戦略的な観光施策を進める。あわせて、観光関係者、地域住民やまちづくり団体など多様な人々が集う観光まちづくり会議を開催し、観光と暮らしの調和や産業としての成長の実現を目指す。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度：観光に係る調査・分析、観光まちづくり会議を開催。 ・令和2年度：新型コロナウイルス感染症拡大の影響やコロナ禍での将来の観光動向などを研究し令和元年度作成の骨子を修正するための資料等の作成を実施。 ・令和3年度：令和元年度・2年度の成果を踏まえ、「犬山市観光戦略」を策定。観光まちづくり会議は少人数での井戸端会議形式で開催。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○観光戦略の策定及び印刷 <ul style="list-style-type: none"> ・附属機関である観光戦略会議、専門部会での観光戦略を策定。 ○観光まちづくり会議の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・少人数での井戸端会議形式で開催 ●主な事業費 <ul style="list-style-type: none"> ・観光戦略策定支援業務委託料 7,260,000円 ・観光戦略会議委員報酬 259,200円 ・普通旅費、費用弁償 136,410円
事業の成果・効果	令和3年度は、これまでの調査・分析を踏まえ、観光戦略会議及び専門部会での議論を経て観光戦略が完成した。今後10年間の観光まちづくりの方向性と具体的に推進すべき施策を定めることができた。

II : 個別事業内訳

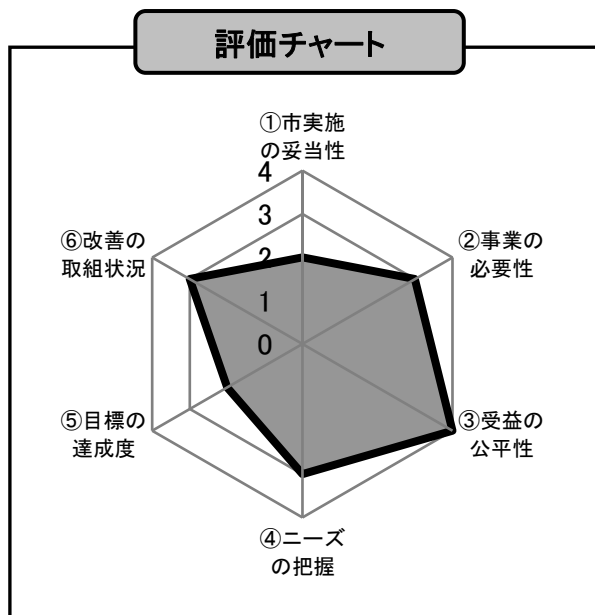
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		適時性確保 適応性向上	情報発信 ・共有化	業務の 効率化
観光戦略	7,656	3,814	3,842	50%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	7,656	3,814	3,842	50%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R2決算	R3決算	R4予算
		194	7,656	516
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	72	3,814	0
	一般財源	122	3,842	516
一般財源の割合		63%	50%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	2	観光協会やDMO(観光地域づくり法人)などが観光計画を立案している事例もあるが、現状の犬山市では市が実施主体として策定すべきものである。
②事業の必要性	3	今後の犬山観光の方向性と具体的なアクションプランを定める為の戦略策定事務であり、市民の生活に関わりのあるものであり、事業の必要性は高い。
③受益の公平性	4	観光戦略策定の目的の一つに、「観光の産業化による市民への効果の還元」を掲げており、地域経済、雇用などの面も含めて、多数の市民が恩恵を受ける犬山観光を目指すための事業である。
④ニーズの把握	3	R1実施の市民意識調査に観光に関する設問を3つ入れ、観光にもっと力を入れるべきとの回答が62.4%あった。また、R1実施の観光戦略策定支援業務の中で、観光客などのアンケートを含む調査分析を実施した。
⑤目標の達成度	2	コロナ禍であるため、観光まちづくり会議は実施できていないが、少人数制の井戸端会議等で課題や今後解決に向けた話し合いの場は設けられた。
⑥改善の取組状況	3	観光戦略については、策定できたものの、今後は戦略にもとづき事業展開をはかる必要がある。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和3年度に見直しを実施した事項	コロナ禍であるため、観光まちづくり会議は実施できていないが、少人数制の井戸端会議等で課題や今後解決に向けた話し合いの場は設けることができた。
令和4年度に見直しを実施している事項	令和4年度は観光戦略を策定完了後は、具体的なアクションプラン(重点事業)等の実施や観光まちづくり推進体制の構築を図ることとしている。
今後見直しを検討する事項	PDCAサイクルの中で、的確な事業の進捗管理、プロジェクトを具体的に推進する体制の構築、観光推進体制を構築した上でマネジメントの組織組成が必要である。犬山市観光協会など関係機関と協議調整の上進めていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和3年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
戦略策定後の重点事業実施の為の予算を含めた体制の構築と確保。	観光戦略に基づく事業推進を積極的に進めるとともに、効果的なマネジメントができるような推進体制の構築を目指す。具体的にはDMOの組成を視野に関係者と協議調整を図る。

令和3年度 決算説明書 / 事業評価シート

企業会計名	決算書(P)
木曽川うかい事業費特別会計	431

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	一般管理
事業目的	「木曽川うかい」を犬山の伝統文化として、保存伝承すると共に、犬山の観光資源として活用する。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○木曽川うかいに係る観光宣伝 <ul style="list-style-type: none"> ・各務原市との協力体制を強化するとともに、木曽川観光(株)とも連携し、各地での宣伝活動を実施。 ○鵜の飼育管理 <ul style="list-style-type: none"> ・鳥インフルエンザ対策など鵜の健全な管理を強化。 ○鵜匠の育成(男性3名の正規職員、女性1名の観光協会職員) <ul style="list-style-type: none"> ・犬山の伝統漁法、木曽川の観光資源として保存継承していくため、将来における安定的な実施体制について継続して検討。 ○船頭の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・伝統漁法の保存継承に欠かせない船頭に関し、次代を担う人材を継続して育成。 <p>●主な事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼料費(鵜のエサ代) 2,857,308円 ・屋形船(若あゆ丸)管理業務委託料 440,000円 ・鵜飼保存・活性化事業委託料 5,106,455円 ・鵜舟・屋形船出船業務委託料 9,746,110円
事業の成果・効果	「木曽川うかい」は犬山が誇るべき貴重な文化財であるが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けるとともに、大雨などによる河川の増水も多く、コロナ前に比べると依然厳しい状況であったが、鵜飼観覧者数は令和2年度からは微増した(対前年比約18%)。船頭育成事業は、的確に訓練を実施することができ、内容も充実した結果2名がとものり技術を取得し、取組みを前進させることができた。

II : 個別事業内訳

(単位:千円)

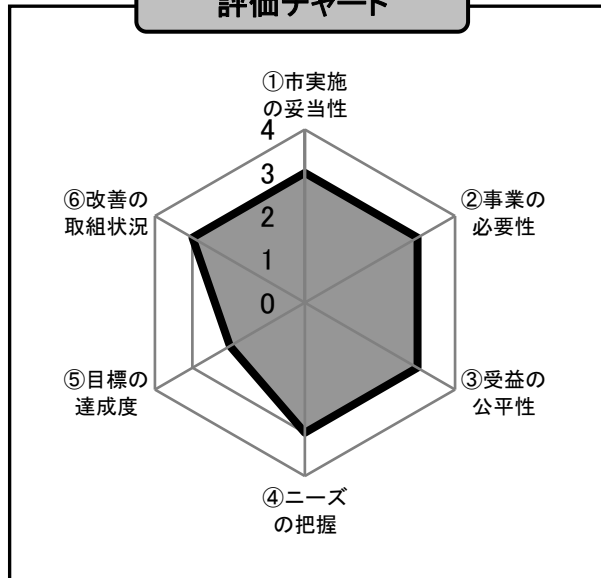
(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		適時性確保 適応性向上	情報発信 ・共有化	業務の 効率化
一般管理	23,146	23,146	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	23,146	23,146	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R2決算	R3決算	R4予算
		14,381	23,146	37,184
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	14,381	23,146	37,184
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市指定文化財である貴重な犬山の伝統文化を保存継承していくためには、市営鶺鴒の継続は必須である。
②事業の必要性	3	市指定文化財の貴重な犬山の伝統文化であり、保存継承していくべき事業である。
③受益の公平性	3	市民のまちへの誇りを高めるとともに、郷土への愛着醸成に寄与する事業であり、市民全体に関わりのある取組みである。
④ニーズの把握	3	夏休みうかい体験には多くの方に参加申し込みをいただいたことから、鶺鴒事業のニーズはありと認識している。
⑤目標の達成度	2	鶺鴒観覧者数は新型コロナウイルスの影響が大きく、加えて大雨による川止めも多くなり激減した。船頭育成事業は、計画どおり進捗した。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和3年度に見直しを実施した事項	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、昨年に続き厳しい状況となった。観覧にあたり船会社(木曾川観光(株))と連携し、乗船者数を減らすなど、感染症対策を講じながら実施。コロナ禍における運用の知見や経験を蓄積できた。市民うかいの一環として夏休みうかいを計画し、小中学生に鶺鴒見学の機会を提供できた。
令和4年度に見直しを実施している事項	引き続きコロナの影響は大きく予断を許さない状況であるが、感染症予防対策をしっかりと講じ、安心して楽しんでもらえるよう、関係者と連携して伝統漁法を継承していきたい。また、市所有の「若あゆ丸」の改築を予定しており、高付加価値商品造成を図り、鶺鴒の魅力向上を図る。
今後見直しを検討する事項	コロナ禍であっても事業継続が可能となるよう、鶺鴒事業など川文化保存発展のための創意工夫が必要である。また以前船頭の高齢化問題もあり、船頭育成は喫緊の課題であり、「なかのり」「とものり」育成事業を今後も実施する必要がある。また、おもてなしの向上として遊覧+αの企画船を検討し実施していく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和3年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
鶺鴒の船頭(なか乗り、とものり)の育成が必須。取り分け専門性の高い「とものり」を育てることが重要である。 鶺鴒の人気と愛着を高める工夫が必要。	船頭育成事業は引き続き継続して実施し、伝統漁法の保存継承に努める。川文化を維持発展させるための多様な主体による多様な取組みが必要であり、遊覧船事業も含め、河川空間活性化の為に官民が連携していくことが肝要である。